

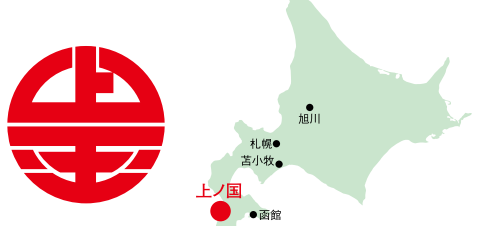


〈位置・地勢〉

上ノ国町は渡島半島の西南、檜山支庁管内の最南端に位置し、北は江差町、厚沢部町、南は松前町、福島町、東は渡島山地の分水嶺をもって木古内町、知内町と接し、西は日本海に面している。面積は、547.58km²を擁し、その約92%が山林で占められている。河川は、北部に天の川、南部に石崎川があり、日本海に注いでいる。天の川は12の支流を合し、流域には1,000ha余の平野部が形成されている。南の石崎川流域にはマンガン、鉛などの地下資源が眠り、天の川南部のなだらかな丘陵地帯には放牧適地が広がる。日本海の海岸線は延長約30キロに及び、集落は主として二級河川天の川沿いの道道江差木古内線と、海岸部を走る国道228号沿いに形成され、その数は23にも及ぶ。

〈気候〉

対馬暖流の影響を受け、四季の変化が穏やかで寒暖の差も少ない。年平均気温は9.8℃前後であるが、日照時間は割合少ない。雨量は一般に6月から10月にかけて多く、風向はこの地方特有のヤマセ(南東の風)が5～6月に吹き、冬季間は北西の季節風が吹き荒れる。初霜は10月中旬、初雪は11月中旬、12月中旬には積雪となる。積雪量は山間部で130cm、平野部は40cmに達し、3月中旬には融雪期を迎える。



〈上ノ国町民憲章〉

わたしたちは、北海道夜明けの地にいきる上ノ国町民であることに誇りをもち、祖先の偉業を受けつぎ、恵まれた大自然を愛し、町民一人ひとりが自覚と責任をもって、調和のある明るい町づくりにつとめます。

- 一、健康で明るくごとにはげみ、住みよい町をつくりましょう。
- 一、生産のくふうにつとめ、力を合わせ、豊かな町をつくりましょう。
- 一、きまりを守り環境をととのえ、美しい町をつくりましょう。
- 一、自然を愛し文化を育て、希望にみちた町をつくりましょう。
- 一、老人をうやまい、子供の夢をのほし、楽しい町をつくりましょう。

■表紙説明

元和年間2度にわたって松前を訪問したローマの耶蘇会士ジェロニモ・デ・アンジェリスが1621年管区長に送った報告書に添えた地図。原本はないが、蝦夷島の部分は忠実な写だと考えられている。今日残る最も古い蝦夷地図で、もちろんヨーロッパ人の描いた最初の蝦夷地図である。彼は、蝦夷島を、その北西部では狭い海峡をへだててアジア大陸に接し、東部では北アメリカ大陸に接する東西に細長い島として描いている。アンジェリスはこの蝦夷地図の注釈で、はじめて上陸した蝦夷島の港をツガ(Tçuga)と記し、地図に書き入れているが、この港こそ天の川河口付近ではないかと言われている。

写真提供:北海道大学図書館 北方資料室

- 発行/北海道檜山郡上ノ国町
- 発行日/平成20年12月
- 企画・編集/上ノ国町役場総務課
- 企画・制作/(株)総北海札幌支社